

真宗大谷派
(東本願寺)

桑名別院 本統寺

〒511-0073

三重県桑名市北寺町47番地

TEL (0594)-22-0652

FAX (0594)-22-0681

メール kwanabetsuin@gmail.com

全日 開門 6:00 / 閉門 17:00

(寺務所 平日 9:00~17:00)



ご坊さんだより

2022年

9月



さる7月18日から22日、暁天講座が行われました。当講座は新型コロナウイルス感染症の影響により、前々年度は中止、前年度はインターネット配信での開催と異例の事態となっておりましたが、今年度は通常の5日間で開催し、連日百人を超える方々が聴聞にお集まりいただきました。

第56回
桑名別院
暁天講座

3年ぶりの通常開催に喜びの声

当初の講師、荒山先生は始めにそう語り、5日間の暁天講座が始まりました。

初日の講師、荒山先生は始めにそう語り、5日間の暁天講座が始まりました。

当講座は、昭和40年の桑名別院宗祖親鸞聖人七百回御遠忌において整備された別院諸施設を、いかに三重教区の教学教化のために開放できるかという課題の中で生まれ、以後50年以上にわたり大切に受け継がれてきました。そんな歴史を知る人や、長く参加されている方々からは、通常開催を喜ぶ声、懐かしむ声が聞かれました。

肉声で語り合い、喜びを分かち合い、深い感動をいただく。そして命がけで聞法するアナタからまた学ぶ。それこそ浄土真宗の要であり、暁天講座である。



東本願寺出版から書籍を多数紹介・販売しました。



マスク、検温、消毒を徹底し、また本堂内だけでなく、聞光殿でも聴講ができるようモニターを設置するなど、感染対策を講じながら開講いたしました。

当講座は、別院周辺地域の組長さんを中心として、多くの方と共に準備運営にあたっています。

18日

あらやま じゅん
荒山 淳

教行信証『行巻』にのたまわく、

「衆生また何の苦しみあればか、自ら棄ててせざらんや。ああ夢幻にして真にあらざり、寿夭にして保ちがたし。呼吸の頃に、すなわちこれ来生なり。」

一たび人身を失いつれば、万劫にも復せず。この時悟らずは、仏も衆生をいかがしたまわん。願わくは深く無常を念じて、いたずらに後悔を貽すことなかれと。 真宗聖典 p.183-184)

「一息の頃にいたずらに後悔を貽すことなかれ」

荒山先生は、最近に母を「くされ、その時に母の「き骸から自身にひとつの事実が届いてきた」といふ。

別れは突然くるが、お前の身も同じなんだぞ。いのちは一息

一息の間にあり、過ぎ去っていく。後悔のなきよつに。」

思い返すと母は、私が車で出かける際、前を見て走らんとかんよ」と分りきった話を毎回かけるものであきれていたが、実は有り難い言葉だった。念仏の教えとは、間違いだらけ、後悔だらけの私たちが、そのことを縁として、如来様から頂いたお便りを道しるべとして、仏法に出遇つていくことである。



南無阿弥陀仏 人と生まれたことの 意味をたずねていこう

今回の暁天講座では、「宗祖親鸞聖人誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ」をもとに、5日間、5人の講師から様々な角度でのお話をいただきました。

19日

おおはし ゆかこ
大橋 由香子

フリーライター

フリーライターをされている大橋先生は、ご自身の取材や編集の経験をもとに、お話いただきました。

「生む・生まない・生めない」「サイラス・マーナー」と優生保護法から考える」



160年前の『サイラス・マーナー』というイギリスのジョージ・エリオットの小説には、階級制度の問題や人間の豊かさとは何かについて考えさせられる内容があり、またそこで子どもを生む人、生まない人、生めない人、育てる人、育てられない人、様々な立場の人物が登場します。

また、過去日本に存在した「優生保護法」によって、その当事者がどのような思いを抱き、現在歩んでおられるかの紹介もいたただく中で、優生思想への疑問や女性蔑視の起る得る社会や問題点について、私たちに今一度考える機会を提示されました。

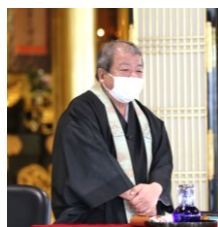


20日

譲 西賢

ゆずり さいけん

譲先生は「自身の専門である心理学から、また時には生物学と比較しながら、親鸞聖人の教えと繋がるお話をされました。



私たちは生後間も無く、産声を上げ、泣きながら誕生します。そこから母親や周りの誰かに見守られながらも、3歳ほどまでに最初に自力を獲得するようになっています。その後学校

や社会で自己肯定感を得て、成年期には自己への否定感も出ます。色々なものを獲得した後に、自力だけでは生きられなくなっていく老年期があり、阿弥陀様の願いによって生かされている、いただいているのちであることに気付くことが出来ます。

「私の中の多様性」

一人の人生の中にも時期によって多くの人格があり、それを先生は「個人内多様性」と表現し、その全てを通して私であり、私は私である」と力強く話されました。かつて親鸞聖人が持たれたような問いを今、私たちも持ち続けて生きていくのです。



21日

三浦 伸也

みうら しんや

絵本の朗読をされる三浦先生は、早朝の蝉時雨の中、お話の背景がよく浮かぶほどのユーモアを交えながら絵本との出会い、朗読を通して出会う人たちの感性についてお話をされました。

「子どもから学んだ、しあわせの見つけ方」



幼い子どもの感じる力や想像力から、答えはひとつじゃなくていいと学び、向き合われる三浦先生。これまでの経験を基に自分が周りの人間やご先祖様から見守られていることを深く理解し、挑戦することを大切にされています。

先のことを考えすぎ

て、時間に追われている大人の在り方に対して、考える力より感じてる力を大事にしてほしいと訴え、リスクを恐れず笑って過ごせる社会を目指していると明るく語られました。



22日

藤原 正寿

ふじはら まさとし

6年前、相模原で知的障害者施設に元職員が侵入し、19人の死者を出す事件が起きました。動機は「入所者がいない方が社会のためになる」ということでしたが、職員時代にその発想を持ちかけた彼を同僚が精神科に入院させたことも拍車をかけたそうです。彼の抱えていた問題を「用なしの不安」と先生は表現されました。

「人はなぜ傷つけ合うのか」

私たちが、彼のような極端な行動までとはならずとも、家族や社会に迷惑じゃないだろうかと生きている価値の有無を気にすることがあるのではないのでしょうか。その価値観に基づいて正しさを求める時、多少の犠牲も構わないと人は傷つけ合うのです。傷つけ合いを越えるには、相手との会話も大切だが、自分自身がどういうものであるのか知ること、またなぜヒトが誕生したのかを学ぶことが大切な一歩であると話されました。



9月の行事予定

法話(又は講演)のご案内

◇同朋会

会費 500円

9月2日(金) 午後1時～3時

講師 安田 雅 (桑名別院輪番)

※10月は「お待ち受け大会」準備のためお休みします。

毎月第一金曜日開講。次回は11月4日(金)です。

◇人生講座

会費 500円

9月4日(日) 午前7時～8時

講師 稲垣 順一

(桑名市 正覚寺住職)

※毎月第一日曜日開講。次回は10月2日(日)、
講師は 伊藤たね子 (桑名別院婦人会会長)

とお知らせしておりましたが、諸事情により、

講師 高科 行 (長島町 仁了寺住職)

に変更させていただきます。

◇桑名別院法話のつどい

9月13日(火) 午後1時～3時

講師 藤井 晃世

(三重教区 駐在教導)

◇親鸞聖人御命日のつどい

9月28日(水) 午後1時～3時

講師 角田 浩輔

(いなべ市 妙光寺衆徒)

◇晨朝法話

毎朝 午前7時 法話 別院列座

(13日、28日の御命日は輪番)

晨朝(おあさじ) 毎日午前7時～

祥月経 毎日午前9時～

[13日、28日は午後1時～、又31日は30日に兼ねます。]



他の時間に祥月経ご希望の方、
または年忌等各種お参りをご希望の方は
寺務所までお問い合わせください。

※9月9日はおみがきの時間と重なるため、前日に兼ねます。

お夕事 毎日午後4時～

御命日のお参り

前住上人 12日	午後1時	速夜
	13日	午前7時 晨朝
		午前9時 日中

親鸞聖人 27日	午後1時	速夜
	28日	午前7時 晨朝
		午前9時 日中

◇おみがき ☆ご奉仕、お待ちしております☆

9月9日(金) 午前8時半～午前11時頃



内 容：彼岸会に向けての仏具のお磨き

集 合：8:30に別院本堂

持ち物：作業のできる服装

秋季彼岸会

9月20日(火) から 26日(月) まで

20日	午前9時	初日中	午後1時	総経
21日			午後1時	総経
22日			午後1時	総経
23日	午前9時	中日中	午後1時	総経 勤行後 法話
24日			午後1時	総経 勤行後 法話
25日			午後1時	総経 勤行後 法話
26日	午前9時	結願日中	午後1時	総経

23日(金・祝)

講師 水野 朋人 (東員町 浄泉寺住職)
「無碍の一道」

24日(土)

講師 加藤 淳 (菰野町 盛願寺住職)
「煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり」

25日(日)

講師 訓覇 浩 (菰野町 金藏寺住職)
「五濁の世に人として生きん」